



令和 8 年 8 月 3 1 日

DMAT 2 チームと高規格病院救急車を派遣

広島大学病院が要請を受け熊本地震被災地へ

広島大学病院は、厚生労働省 DMAT（災害派遣医療チーム）事務局からの要請を受け、熊本地震の被災地に DMAT2 チームを派遣しました。第一陣は 7 月 30 日から 8 月 1 日まで、第二陣は 8 月 2 日から 5 日まで現地で活動しました。大型電源と 5G 通信設備を備えた「走る集中治療室」ともいえる日本初の高規格救急車を活用し、心電図などをモニターしながらの患者搬送や高い搬送能力を生かしての患者向け飲料水の運搬のほか、被災病院からの情報を集約する活動拠点本部の運営支援、患者ケア、看護師派遣などの支援に取り組みました。

県内からは 14 病院から DMAT チームが派遣されましたが、2 チームの派遣を要請されたのは広島大学病院のみで、最多となる 13 人の隊員が現地に赴きました。チーム員が現場と本部に分かれて、機動的に活動する局面もありました。さらに、DMAT の本部運営と調整を専門に担う DMAT コーディネーター計 3 人も 8 月 1 ～ 25 日に派遣しました。

■DMAT チームの主な活動

- ・第一陣は医師 2 人、看護師 2 人、薬剤師 1 人、救急救命士 2 人の 7 人。
- ・第二陣は医師 2 人、看護師 2 人、放射線技師 1 人、救急救命士 1 人の 6 人。
- ・熊本県央南活動拠点本部が置かれた済生会熊本病院（熊本市）での本部運営や、被災した病院からの患者搬送、被災病院の患者のケア、患者向けの飲料水運搬などを行いました。

区 分	内 容
患者搬送	高規格病院救急車を活用し、心電図や血圧等をモニタリングしながら受入施設へ搬送。
現地支援	被災病院の支援、患者ケア、入浴支援、不足していた飲料水の搬送などを実施。
本部運営	熊本県央南活動拠点本部において情報整理や関係機関との調整など本部運営を支援。

※ 文部科学省「高度医療人材養成拠点形成事業」の補助金を活用して広島大学病院が導入した高規格病院救急車は、心肺補助装置（ECMO）や人工呼吸器を装着した重症患者を安全に搬送できる装備と、5G 通信を活用した遠隔医療機能を併せ持つ「走る集中治療室」ともいえる車両です。災害時には治療と搬送も担うことが期待されています。



熊本地震被災地から広島大学病院に帰着した高規格病院救急車と DMAT カー
(8月6日)

・ほかに、広島県からの要請で、被災地で地域住民の看護や医療関係者の負担軽減を担う災害支援ナース2人を8月9～12日に、JRAT（日本災害リハビリテーション支援協会）の要請で理学療法士と作業療法士ら計3人を8月7～12日と同16～20日に派遣しました。

DMAT チームと合わせて、これまでに21人の職員が活動しています。

■ 今後の見通し

連日気温 40 度前後の猛暑下での活動で、DMAT 隊員の健康面にも配慮しながらの活動でしたが、体調不良者は出ず、業務をこなしました。大学病院として可能な限り被災地支援に努めてまいります。

【お問い合わせ先】

広島大学病院総務グループ

電話：082-257-5418

メール：byo-toku-chousa@office.hiroshima-u.ac.jp